



上野幌育種場より

一 春、夏の作況から

融雪期は例年より一〇日後後早く、その後も低温ではありましたが、雨少なく農業は前般に順調に進みました。しかし、作況は低温と乾燥(早魃)のため発芽遅延、牧草を始め越年作物の生育は遅々とし、目下の作況では決して樂觀の出来る状態ではありません。(六月始め現在)

主な作物の作況と今後の対策

○種子の生産関係(減産を予想されるもの)
ライ麦 冬枯れはありませんでしたが、草丈短く、春以来の分蘖も少なく、種子は相当の減産が予想されます。

レープ 冬枯れ多く、更にその後の生育も早魃で不良なため、当然種子不足となります。

かぶ、ルタバガ 抽莖後の早魃が大きく響き、草丈は勿論、分枝も少なく相当の減収がもう決定的です。なお、暖地で採種の下総かぶ等も例年にない雪害、寒害等で冬枯れ、生育遅延で減産はまぬがれないでしょう。

牧草ではオーチャード が既に出穂期に入ろうとしておりますが、穂が小さいだけに当然減収でしょう。

とにかく、採種時期の早い作物程四、五月の寡雨で早魃の影響が大きく、減産が決定的かまたは予想されておりますので、今秋特に優良品種を御利用の方は早目に種子手当を必要と思われま。

○飼料生産関係

早春ツナギ飼料 ライ麦やレープ・C・O等牧草に先立って利用するために作付けしたこれら作物は、今年冬枯早魃であり利用価値が発揮されなかつたと思ひますが、今春一度の結果から中止せず、よい年の多いことを考えて今秋も是非作付してほしいと思ひます。そして冬枯防止や早魃から守るためには、更にどの点に注意したらよいかを、今年の貴重な経験から割り出したいものです。

○牧草類

全般に一番草は相当の減産となりましよう。個々の牧草ではオーチャード、ルーサンの生育が不良で、赤クロパーは良好、チモンも普通といったところで、早魃でルーサンの生育が何故悪いのか、種々原因の究明を必要としますが、目下の心当たりでは陽光が少ない、地温の低い、つまり寡照、低温が原因の一つでもあると思っております。

刈取り時期は草伸びの悪いに拘らず生育相は逆に進んでおりますので、例年より早くなるものと思われ、今後は適期刈取、刈取後追肥励行で、二番、三番草で収量挽回に努めると共に一番草は草伸びが充分でなくとも適期刈りを励行、良質草の収かくに努めるべきでしょう。

デントコーン 播種は適期に行なわれた

と思ひますが、発芽には二〇日ぐらいも要し、目下の作況は遅れております。除草、間引き、追肥等手遅れのない管理で挽回したいものです。サットンやペンキン等の青刈菜豆の混播は発芽が遅かつただけに播種後日数のみに頼らずデントコーンの草丈を標準に二〇〜三〇センチに生育した時期に行なうようにして下さい。

○根菜類

特に乾燥する火山灰地ではビートの発芽不良、或いは不揃いが部分的にあるようですが、今年ほど根菜類の播種後の鎮圧の必要をマザマザと見せつけられたことがなかつたと思ひます。鎮圧を行なつた方は例外なく発芽が順調でした。欠株には早目にルタバガの補播または補植を、七月末以降ではかぶの補播を行ない減収を避けましよう。

二 最近の上野幌育種場の往来

春以来の畑作業が順調だったこともありましようが、全般には飼料生産への関心が高まつた結果、見学、研究に來場される方が例年になく早く、五月早々の鹿児島県試験農業講習所の団体を皮きりに、連日來訪者が頻ります。遠路遙かにお訪ね下さる御熱意に敬意を表すると共に、頼りにされていと思ひますと感謝と責任の念で一杯です。

來訪者の動向をみますと、関心の焦点は勞力不足、多頭飼育化から飼料の省力化栽培にあるようです。幸いにして、数年前から、この問題を取り上げ、現在実施段階のもの、調査段階のものを若干行なっておりますので、紹介申し上げます。

○牧草地造成の省力化

○飼料作全般に亘つての除草剤利用

○ビートの省力増収のための紙筒移植
○かぶ、ルタバガのバラ播き栽培
○デントコーン(サイレージ用)のバラ播き栽培

○乾草調製勞力分散のための架利用乾草

等々です。

札幌酪農組合青年同志会では、除草剤利用について、年中計画で飼料作の除草剤一連利用研究を課題に定期的に現地研究のため來場しております。

○農場への往来であと二つ。

○過日宮崎県の一青年(一九歳)がなんの子告もなしにヒョッコリ來場、雑誌や新聞でこの農場を知つたが、酪農を勉強したいので、四〜五年実習させてくれという突ビな訪問者もありました。九州男子らしく意気旺んといひますか、無鉄砲といひますか、幸い近所の優秀酪農家に受入れしていただき、目下真剣に北海道酪農と取り組んで好評ですが、実習希望の方はあらかじめ御連絡をねがいたいと存じます。

○近在の小中学生が農場研究ということで、春以来三〜四校の來場がありました。草に対する認識で感じたことは、日本の学童はクロパーも、チモンも雜草と同じ草という考え方、見方が強く、これは家畜の飼料として大切な作物で皆さんのトマトや、西瓜と同じような作物ですから、踏み荒さないようにと注意が必要ですが、過日札幌西ロータリー倶楽部が在札の外人家族を招待した時、その中に二〇名近くのあちらの子供が來場しましたが、これはチモン、これはクロパーと牧草畑と、遊んでもよい芝生とはきちんと区別してあります。考えさせられることの一つです。

(以上六月五日記)